

令和3年度 日本応用地質学会関西支部 特別講演会・研究発表会のご案内

令和3年12月1日（水） 13時～17時

開催方法：オンライン開催

◆プログラム

▶特別講演①「僕が災害を語るわけ」

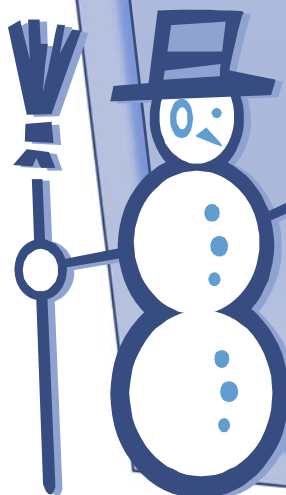
高嶋哲夫 氏（作家・日本応用地質学会賞受賞）

<講演内容>

日本は、地震、火山、土砂災害などが多発する「災害列島」と言えるが、これには我が国の地理的要素が大きく関係している。第一線で活躍された元技術者・研究者の視点から『ハリケーン』『富士山噴火』などを膨大な資料に基づき執筆された過程や、『首都崩壊』『首都岡山』で取り上げた吉備高原などについて、地形地質をふまえながらご講演をいただきます。

（講演者ご紹介）

日本原子力研究所勤務時に日本原子力学会技術賞を受賞。その後、UCLAに留学したのちに作家に転身。作家として北日本文学賞の受賞を皮切りに数々の賞を受賞し、自身が阪神・淡路大震災に被災して以降は、大規模自然災害を膨大な資料に基づき執筆する「クライシス小説」の世界を築き上げた。自然災害を題材にした代表的な小説には、『M8』（東京直下型地震）、『TSUNAMI』（南海トラフ巨大地震）、『東京大洪水』（巨大台風による荒川決壊）、『富士山噴火』（富士山噴火）、『ハリケーン』（豪雨による土砂崩れ）などがある。また、漫画『アニマート』では関東平野の地形発達や首都圏直下型大地震の合理的な説明を可能にした「首都圏直下に位置する第四のプレート」説（産総研）を題材に、この第四のプレート崩壊による関東沈没を描いた。2007年に公開された大沢たかお・竹内結子主演の山岳サスペンスアクション映画『ミッドナイトイーグル』の原作者でもある。岡山県出身。



▶特別講演②「神社に潜在する災害記録とその応用地質学的意味」

黒木貴一氏（関西大学）

＜講演内容＞

神社は比較的安全な場所に立地することが知られており、近年の豪雨や津波災害においてもそれは実証されているが、例えば狛犬などの奉納物が被災することもある。被災すると奉納物は改めて奉納されるため、奉納年は災害後に集中している可能性が示唆される。本講演では、九州や近畿における奉納物の調査において明らかとなった被災範囲や被災時期などの自然災害の時空間記録をご紹介いただきながら、その応用地質学的意味について述べて頂きます。

（講演者ご紹介）

国土地理院から福岡教育大学を経て、昨年より関西大学 総合人文学科 教授として自然地理学を教える(現職)。応用地質学会九州支部の前支部長。2016年熊本・大分地震災害調査団では調査団長を務め、今後の防災・減災に役立つ応用地質学的知見を見だし、国民に還元できる視点での調査に尽力した。現在、大学においては、この山はどうしてできたのか、この川はどこからどこまでいくのか、地球表面の岩石、水、空気の移動に伴う姿形を、時間と空間のスケラブルな切り口から見出す研究を、GISや三次元地形データの解析、現地調査などに基づき行っている。近著（共著）に『地形でとらえる環境と暮らし』（古今書院）がある。

▶一般講演（研究発表会）現在4件の予定

◆申し込み先：

日本応用地質学会関西支部事務局
復建調査設計株式会社 大阪支社 地盤技術課内
532-0004 大阪市淀川区西宮原 1-4-13
TEL 050-9002-1769 FAX 06-6392-7216
メールアドレス「kansai-jseg@fukken.co.jp」

- ・申し込み期日：令和3年11月29日（月）
- ・申し込み記載内容：『お名前』、『所属』、『CPD活動証明書の要・不要』

◆参加費等

参加登録料 無料（会員・非会員とも）

